

引き揚げの史実を語り継ぐ

NPPO法人 舞鶴・引揚語りの会

戦後、多くの引揚者を温かく迎えた舞鶴。その引き揚げの歴史を風化させないよう、「引き揚げ」を言葉で語り伝える「語り部」としてボランティア活動をされている「NPPO法人 舞鶴・引揚語りの会」の皆さんにお話を伺いました。

語り伝える平和への思い

舞鶴・引揚語りの会は、引揚記念館の来館者に、展示資料の説明や時代背景、引揚者の証言など、見るだけではなかなか伝わらない事柄を分かりやすく解説しています。

言葉を使って「語り部」として



資料だけでは読み解くことが難しい、そこに込められた引揚者の思いをより深く伝えることができると思っています。

また、「語り」だけでなく実際に引揚者の方から話を聞くことも大切な活動です。つらい体験なので、当時の事をご家族にもあまり話されない方もおられます。そんな方が記念館を訪れたときに、堰を切ったように当時のことを話されるのがあります。そして「気持ちが高くなった」といわれ、記念館を後にされます。その思いを、橋渡しといえは大げさですが、次の世代へ伝えていきたいと思っています。

語り部となって

語りの会のメンバーは現在約30人。会に入るきっかけは、市の「語り部養成講座」を軽い気持ちで受講したのがきっかけという方も少なくありません。しかし実際に語り部として活動するうちに来館者から「よく理解できた」と言われたときや説明がよく伝わったと

感じたときは大変うれしく、ますます活動に力が入っていききました。

来館者は小学生や若者、年配の方などさまざまで、相手によって説明の内容や言葉も変えないよううまく伝わりません。そこが難しいところでもあり、やりがいのある活動です。

舞鶴市民の果たした役割

記念館に所蔵されている資料には、引揚者1人ひとりのつらく悲しい思い出と13年間にもわたり温かく迎え入れてくれた舞鶴市民への感謝の気持ちが凝縮しています。自分たちも苦しい生活の中、当時の舞鶴市民が引揚者に対して果たした、出迎え・湯茶の接待・慰問など「思いやりと優しさ」の精神と行動についても語り継いでいく必要があると強く感じています。

署名活動にご協力を

語りの会は市が目指している「ユネスコ世界記憶遺産」への登録申請に少しでも力になればと、思いを同じくするいくつかの団体とともに「世界記憶遺産登録を応援する会」を立ち上げ署名活動を始めました。

この署名を機会にご家族で「平和の尊さ」や「舞鶴市民が果たした役割」について話しあっていたらぜひと願っております。7月から各自治会の協力で署名活動が始まります。1人でも多くの人の署名をお願いします。

まいづる花図鑑

83

【ダイコンソウ】 (バラ科) 見ごろ7~8月頃



各地の山地に多い多年草。茎は直立し、高さ40~70センチでまばらに枝分かれし、全体に荒い毛がある。根もとの葉は、羽状複葉で先端の葉は大きい。茎の葉は楕円形で3つに切れ込む。

夏、小枝の先に直径1.5センチくらいの黄色い5弁花を数個つける。名前の由来は、根もとの葉がダイコンの葉に似ていることから。全草を干したものを、水楊梅と呼び、利尿剤として用いる。

【協力】

瓜生勝朗 市文化財保護委員 (植物分野)